

---

## コラム：学術情報流通にまつわる諸話題（その1）

---

学術情報流通において、近年は論文のオープンアクセス(以下 OA)が一般的になってきました。ここでは OA の基礎知識と、その動向にまつわる話題をいくつか紹介します。

### (1) OA とは

論文をウェブサイトで公開し、誰でも無料でアクセスできるようにすることです。その方法としては大きく分けて①「機関リポジトリによるセルフアーカイビング(グリーン OA)」、②「学術誌へオープンアクセス論文として投稿する(ゴールド OA)」の2通りあります。

グリーン OA とは、論文の著者最終版など出版社との契約で認められたものを機関リポジトリ上で公開するものです。本学では東北大学機関リポジトリ TOUR(<https://tohoku.repo.nii.ac.jp/>)を用意しており、論文に限らず様々な研究成果・資料を公開することができます。

本学では2018年3月13日に「東北大学オープンアクセス方針」を策定しました。これは「本学で創造された研究成果をインターネットで広く公開することにより、社会に「知」を波及し、研究中心大学として人類社会の持続的発展に貢献(附属図書館ウェブサイト2018年3月23日付けお知らせより)する」という本学の意志の表明です。また、日本学術振興会も科研費助成を受けた研究成果論文のOA化を推奨しています。

TOURで論文を公開する際の具体的な手続きは附属図書館ウェブサイトの特設ページに掲載しておりますので、オープンアクセス方針へのご賛同とご協力をお願いします。

(<http://www.library.tohoku.ac.jp/research/openaccess/index.html>)

### (2) 投稿料または論文処理費用(APC: Article Processing Charge)

もうひとつのゴールド OA は、もともと OA として刊行された学術誌に投稿する場合と、従来の購読型の学術誌に OA 論文として投稿する場合があります。これらは投稿料または論文処理費用として APC(Article Processing Charge)という料金が徴収される場合がほとんどです。

購読型の学術誌については購読料の高騰が問題となっており、本学でも年々購読誌を見直しせざるを得ない状況が続いております。世界的に購読料を支払っている学術誌に OA 論文として投稿するために APCを支払うのは出版社の二重取りではないかという批判があり、近年は購読料と APCを組み合わせた契約も出てきましたが、本学として有効な契約交渉を行うためには学内全体でどの程度 APCを支払っているのか把握する必要があります。

より多くの研究者に論文を読んでもらうためにはゴールド OA も活用する必要がありますが、支払い手続きの際に OA のための APCであることが分かるようご協力をお願いします。

なお、附属図書館ウェブサイトには APC 割引がある出版社の情報もありますのでご活用ください。

(<http://www.library.tohoku.ac.jp/search/ejournal/apc.html>)

(p.137 へ続く)